

ジシバリ (地縛り)

名前の意味：この^い茎^みの^は所^くから根が出て、地面をしばっているという
見^み立^たて。

分類：双子葉類、キク科、ニガナ属

(キク科の^{さいばいしょくぶつ}栽培植物：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、土手

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：細い^はこの^く茎、ちぎると白いお乳が出る。丸い葉、タンポポの
ような花。

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：合弁^{ごうべん} (花びらがつながったまま落ちる)、5裂^{れつ}

花の時期：4—5月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：オオジシバリは、全体が大きく、葉が長い。タンポポは
花が大きく、花の数が多い。

見つけやすさ ★★★★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)